

## まえがき

江戸時代、庶民の子どもたちは、寺子屋に通って読み書き算盤<sup>そろばん</sup>を習いました。近世末期以降、洋の東西を問わず、読み (reading)・書き (writing)・算 (arithmetic) という 3R's は、初等教育における基礎的な教育内容と考えられています。

心理学においても、論文を読む、書く、データの分析 (統計) はたいへん重要です。心理学を学ぶ学生にとって、この3つは基本中の基本といってよいでしょう。

私は、これまで30数年にわたり、中央大学でのゼミ活動を通じて、心理学専攻の学生や院生に対して3R's (読み・書き・統計) を指導してきました。

前著『心理学論文の書き方——おいしい論文のレシピ』では、論文を書くということに焦点を当て、そのエッセンスをまとめました。本書は、それに引き続き、論文を読むということに焦点を絞り、その際に重要となるポイントを整理したものになっています。

読むということは、ともすれば受動的なものだと考えられることが多いのですが、決してそんなことはありません。論文を読むことは、きわめて能動的な行為なのです。「読み取る」「読み解く」「読み重ねる」「読み尽くす」。このような言葉づかいにも、読むことの能動性が表されています。論文を読むということは、その論文を構成する論理の枠組みや著者の意図を理解していくことです。論文を一度読んだだけでわからなければ、何度でも繰り返して読み、理解を深めていくことも求められます。こうしたこ

とから、論文を読むという行為は、論文の著者との対話ともいえ  
るでしょう。本書では、このような能動的な読みを展開していく  
際に気をつけなければならないポイントを示してあります。その  
ポイントをつかむことができれば、それは心理学論文を書くとき  
にもきつと役に立つに違いありません。

本書は全11章から成り、Part1「論文を読む前に」とPart2  
「論文を読む」という2つの部分から構成されています。目次を  
ご覧になっていただくとおわかりになるように、論文を読み始め  
る前の段階から読み終わった後の段階まで、重要なポイントが時  
系列的に並べられています。

最初から最後まで通して読んでもらうことを念頭においていま  
すが、自分が困っている点があれば、そこを集中的に読んでもら  
っても構いません。各章の最後には、「本章のポイント」をまと  
めてありますので、そこに目を通してから本文を読むと、内容理  
解がより一層深まっていくと思います。

本書のテーマは、副題にあるように、「学問の世界を旅する」  
です。論文を読むことを通じて、心理学の世界の面白さや楽しさ  
を知ってほしいという思いを本書に込めました。

論文の背後にある心理学の理論や歴史を知ることによって、論  
文の読みは確実に深まっていきます。同時に、知的世界がどんど  
んと広がっていくのです。本文中には、心理学の概念や歴史的な  
エピソードがところどころに登場します。それもまた、心理学の  
世界への旅へと誘う仕掛けの1つとなっています。16ページに  
は、「学問の世界の旅マップ」も掲載してあります。そのマップ  
を見ながら、論文を読むというプロセスを味わっていただければ  
と思います。

# 目次

まえがき (i)

## プロローグ **論文を読もうとする人に** 1

- 1 心理学という学問の成り立ち ..... 1
- 2 論文を通して新しい世界を知る ..... 2
  - 1 キーパーソンを通して知る (3)
  - 2 時代背景 (社会的状況)を知る (4)
- 3 論文を読むことの難しさ ..... 4
- 4 論文と小説の違い ..... 7
  - 1 論文には決まった形式がある (7)
  - 2 心理学の論文は論理を大切にす (8)
  - 3 心理学の論文はどこから読んでも面白い (8)
  - 4 心理学の論文を読んで著者の心意気にふれる (9)
  - 5 論文の中のメッセージを読み解く (10)
- 5 論文は読めないと思っているあなたへ ..... 11
  - 1 わかることとわからないことを分ける (12)
  - 2 とにかく最後まで読んでみる (12)
  - 3 読んだ論文を記録する (12)
  - 4 辞典を用意する (13)
- 6 心理学の世界への旅に出よう ..... 13

学問の世界の旅マップ (16)

## 第1章 なぜ論文を読むのか 21

- 1 論文を読む4つのシチュエーション ..... 21
- 1 授業の課題で出された論文を読む (21) 2 読書会や研究会などで、論文を検討する (22) 3 基礎実験のレポート作成の参考文献として論文を読む (22) 4 卒業論文を執筆するときに論文を読む (23)
- 2 レポートを書くことと論文を読むことの関係 ..... 23
- 3 自分の意志で論文を読む ..... 26
- 4 論文を読む楽しみ ..... 29
- 1 論文は知的欲求を満たすものである (29) 2 新しい研究手法を知ることができる (30) 3 論文の著者と対話することができる (31)

## 第2章 論文の作法を知る 33

- 1 心理学論文のタイプ ..... 34
- 1 実証的な論文 (34) 2 レビュー論文 (35) 3 原著論文・資料論文 (35) 4 原著論文・意見論文 (コメント・リプライ) (36)
- 2 論文のルール ..... 37
- 1 「私は」を使わない (37) 2 著者の見解と先行研究の見解を区別する (39)
- 3 科学論文であるということ ..... 40
- 4 構成概念と操作的定義 ..... 41
- 5 論文において重要な客観性と論理性 ..... 44
- 6 心理学における心の探求 ..... 45

- |   |   |    |
|---|---|----|
| 1 | 論文の媒体を吟味する  | 50 |
| 2 | 心理学の用語を知る   | 51 |
|   | ■心理学用語の意味を知るには辞典が必要 (52)           ■心理学には独自の用語や概念がある (53)           ■専門用語の理解度をチェックしてみる (54) |    |
| 3 | 心理学の知識を学ぶ——心理学の分野と発展史   | 55 |
|   | ■概論書を読んでおおよその枠組みをもつ (55)           ■心理学の歴史を知る (56)  |    |
| 4 | なぜだろうと疑問に思う   | 57 |
|   | ■日常生活の疑問と心理学 (58)           ■個人的な問いを一般的な問いにする (58)           ■論文にも疑問をもってみる (59)             |    |
| 5 | 徹底的にこだわる  | 60 |
| 6 | 集中して取り組むために   | 63 |
|   | ■集中して取り組む時間を確保する (63)           ■寝かさずにすぐ読む (64)   |    |

## Part 2 論文を読む

- |   |             |    |
|---|-------------|----|
| 1 | 実証論文の構成     | 70 |
| 2 | タイトルと著者名を読む | 72 |
| 3 | アブストラクトを読む  | 73 |
| 4 | 問題と目的を読む    | 74 |
| 5 | 方法を読む       | 76 |

6	結果を読む	78
	1 データの数量的結果と図表を読む (78)	
	2 検定結果を読む (80)	
7	考察を読む	81
8	文献を読む	81
9	目的に応じて読む箇所を選ぶ	83

---

## 第5章      いろいろな読み方を試してみる      87

---

1	まずは論文を手にとってみる	88
2	その論文を読むかどうかを判断する	88
3	声に出して読む	89
4	ざっくり読む	91
	1 段落の最終の一文に注目する (91)	
	2 段落の冒頭の一文に注目する (91)	
	3 著者の主張や要点を考えながら読む (92)	
	4 行の中心に視線をおき、垂直に下ろしながら読む (92)	
5	じっくり読む	93
	1 ひっかかった箇所を何度も読む (94)	
	2 論理展開を意識しながら読む (94)	
6	部分的に読む	95
	1 方法に着目して読む (95)	
	2 結果に着目して読む (96)	
7	批判的に読む	96
	1 論文にはミスがあるかもしれない (97)	
	2 クリティカル・シンキング (97)	
8	著者の主張を読み解く	98
	1 著者の主張と論理を読み取る (98)	
	2 査読制度の影響もふまえて読む (100)	

9	集团的に論文を読む	101
10	読んだ論文を発表する	103

---

第6章	<b>読むときに役立つこと</b>	105
-----	-------------------	-----

---

1	概論書を手元に置いて論文を読む	106
	①教科書で学ぶ (106) ②図書館に行く (107) ③専門書を探す (108)	
2	論文と本を合わせて読む	108
3	わからないことを放置しない	109
	①知らないことを調べながら読む (110) ②なぜだろう？と疑問をもつ (111) ③先生や先輩に聞きながら読む (112)	
4	読む順番を決める	114
5	メモを取りながら読む	115
6	時間帯を決めて論文を読む	116
7	読み終えたらチェックする	117

---

第7章	<b>図表を読む</b>	121
-----	--------------	-----

---

1	表は上から読む	122
2	図は下から読む	123
3	結果の数値を読み取る	125
4	表の読み取り方	128
5	図の読み取り方	130

- 1 心理学で用いる4つの尺度 ..... 134
  - ① 名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度 (134)
  - ② 4つの尺度と代表値 (135)
- 2 さまざまな検定の例 ..... 136
  - ①  $\chi^2$  検定 (137)
  - ②  $t$  検定 (138)
- 3 図表と検定結果を組み合わせる ..... 140
- 4 検定結果の読み方に慣れる ..... 141
- 5 検定にかかわる進歩——有意差と効果量 ..... 142

- 1 論文情報を整理する ..... 146
  - ① 論文の情報を抽出する (146)
  - ② 論文の情報に応じて整理する (147)
  - ③ 問題意識にもとづいて情報をまとめる (148)
  - ④ 論文をファイリングする (149)
  - ⑤ ファイルをパソコンに保存する (150)
- 2 文献カードで管理する ..... 152
  - ① 文献カードを作る (152)
  - ② 文献管理ソフトを利用する (153)
- 3 読んだら書く ..... 154

- 1 心理学の始まりと日本の心理学  
—— 外国語で心理学を学んだ歴史 ..... 157
- 2 なぜ英語の論文を読むのか ..... 158



3	海外で始まった研究を知る	159
4	なぜ英語論文を苦勞して読まないといけないのか	161
5	英語論文を通して文化を知る	162
6	テクニカルタームを覚える	164
7	論理の展開について	165
8	日本語の概論書を先に読む	167

---

## 第11章 論文を探すコツ 171

---

1	何を手がかりに探すか	172
	<b>1</b> キーパーソンを探す (172) <b>2</b> キーコンセプトとキーワードを手がかりに探す (173)	
2	インターネットでの探し方	175
	<b>1</b> インターネット上の情報は有限である (175) <b>2</b> 情報の真偽や重要性を確かめる目を養う (176) <b>3</b> 検索用語の注意点 (178) <b>4</b> データベース検索の実際 (179) <b>5</b> 情報の波に飲み込まれないように (181)	
3	情報の集め方	183
	<b>1</b> 定点観測で情報を集める (183) <b>2</b> ねらいを定めて探す (184)	
4	論文を探すときの注意点	185

---

## エピローグ 論文の読み方を極める 189

---

- 1** 論文を広く探索し、深く掘る (189)   **2** 鳥の目と虫の目で論文を読む (190)   **3** 論文の質を見極める (191)   **4** 論文の中の「問いとそれへの答え」を読み取る (192)   **5** 終わりは始まり (194)

旅を終えて

(196)

引用・参考文献 (197)

あとがき (199)

索引 (201)

*Column* 一覧

- ① 私と論文とのつきあい (27)
- ② 専門外の論文を読むのは難しい (28)
- ③ 学会誌と論文査読制度 (36)
- ④ 時間的展望における構成概念と操作的定義 (42)
- ⑤ 抜き刷り (51)
- ⑥ サラミ論文 (84)
- ⑦ 論文を読む練習 (102)
- ⑧ 知的好奇心の強い先生 (112)
- ⑨ 著者に直接聞いてみる (118)
- ⑩ 図の原点に注意する (124)
- ⑪ 平均値と標準偏差 (126)
- ⑫ エラーバー (127)
- ⑬ 有意差と帰無仮説 (139)
- ⑭ 母集団と標本——サンプリング (143)
- ⑮ パソコンデータのバックアップ (150)
- ⑯ 論文ノートを準備する (151)
- ⑰ 国際会議の公用語 (160)
- ⑱ 翻訳の問題 (163)
- ⑲ バックトランスレーション——逆翻訳 (164)
- ⑳ 自動翻訳は使えるツールか? (168)
- ㉑ *Psychological Abstracts* (175)
- ㉒ インターネット記事は論文か——利用にあたっての注意 (178)

イラスト オカダケイコ

## 1 心理学という学問の成り立ち

---

心理学は人間の心を対象として研究する学問です。その起源は、1879年にまで遡ることができます。その年、ヴィルヘルム・ヴントは、ドイツのライプチヒ大学に、世界で初めての心理学実験室を創設しました。これが科学としての心理学の始まりです。

それ以前にも、多くの哲学者たちが、人間の心について思索的に論じてきました。それに対して、ヴントは、新たな方法論を用いて、人間の心を研究しようと試みたのです。そのときに彼が用いたのが、内観法という手法でした。ヴントは、哲学とは異なる科学的な方法論を用いて人間の心を研究しようとしたのです。

それから1世紀半ほどの時間が過ぎました。心理学は、経験科学として実証性を重んじてきました。実験や調査、観察や面接などから得られたデータをもとに、人間の心を検討してきたのです。その研究の対象は、認知や感情、対人関係や集団、性格や個性など、多岐にわたります。研究の対象者も、乳児から老人に至るまで、幅広いものです。

このような心理学の歴史からわかるように、心理学が重視してきたのは実証的な結果です。実験などから得られた結果を論文と

してまとめ、それを発表してきたのです。そうした論文は、学会が発行している学会誌などに掲載されてきました（第2章 *Column* ③ 参照）。

私が大学生だった1970年代前半には、学会の数は限られていました。1990年代前後に多数の学会が誕生し、今ではどれぐらいいあるか見当もつきません。学会数が増えるにしたがって、学会誌に掲載される論文の数も増加してきています。学会は、国内のものだけではなくありません。アメリカやヨーロッパを始めとする諸外国にも、数多くの国際学会・国内学会があります。日本語の論文だけでなく、英語や他の外国語で書かれた論文が、毎年無数に発表されています。そして、このような論文を読むことは、心理学の世界を歩んでいく第一歩となるのです。

## 2 論文を通して新しい世界を知る

---

心理学の論文には、研究の成果が込められています。その論文を読むことで、心理学という学問の世界を知ることができるのです。ここでは、私が専門に研究している「時間的展望」を例にとり、考えてみることにしましょう。

時間的展望とは、簡単にいうと、将来の見通しということです。将来が明るいとか、将来の目標があるとか、そういうことをさしています。もちろん、その反対に、将来が暗かったり、目標がもてないという場合もあります。このような感情や認知は、その人が経験してきた過去の人生によっても影響を受けます、とされています。

時間的展望 (time perspective) に関する論文は、1950年代から現在に至るまで、国内外で多数発表されてきています。それらの論文には、クルト・レヴィンの定義を引用しているものが多く見られます。その定義とは、次のようなものです。

「時間的展望とは、ある一定の時点における個人の心理学的過去と心理学的未来についての見解の総体である」(Lewin, 1951)。  
時間的展望は、今という時点から過去を振り返ったり、未来を思い描いたりする心理過程をさしているのです。レヴィンは、現在・過去・未来を含む生活空間 (life space) の中で、人間の心理を捉えようとしてきました。

1

キーパーソンを通して知る

レヴィンは、ゲシュタルト心理学の研究者です。ゲシュタルト心理学は、全体は部分の総和以上のものを含む、と考えました。その一例は、音楽のメロディです。メロディは、音符の1つひとつの要素だけでは理解できません。音符と音符のつながりから構成される全体によって、メロディは初めて理解できるのです。

レヴィンの時間的展望の概念は、ゲシュタルト心理学の理論の上に提案されたものといえます。このように、その概念に関するキーパーソン (提唱した人物など) について学習を進めていくと、時間的展望について、より深く理解することができるようになるのです。

さらに、時間的展望の研究史を遡ってみます。そうすると、時間的展望の始まりが、1929年の世界大恐慌に関連していることがわかってきます。ニューヨーク証券取引所で、株の大暴落が起きたのが1929年10月24日。後に「暗黒の木曜日」と呼ばれ、全世界的に深刻な経済不況を引き起こしました。多くの労働者が職を失い、路頭に迷いました。そのために、将来への希望をもてない状況に陥ります。そのような人々の意識を outlook（将来への見通し）のなさとして研究したのがイズレイリという研究者です。1930年代には、ヨーロッパにおいて、哲学や心理学の分野で時間研究の発展が見られるようになっていました。このような社会的状況と学問の成果が組み合わさり、それがレヴィンの時間的展望の概念へとつながっていくのです。

このように、心理学の論文を読んでいくことで、そのときどきの社会や学問の世界にふれることができます。論文を読むことが、知的世界における新たな発見や新鮮な驚きへとつながっていくのです。

### 3 論文を読むことの難しさ

---

大学生の多くは、心理学の論文を日本語で読むことでしょう。小・中・高校で国語を習い、日常的にも日本語を読んだり、書いたりしてきています。だから、心理学の論文も理解できるだろうと、思う人も少なくないかもしれません。確かに、論文の日本語の文字面を読むことは簡単です。ただし、論文を読んで内容を理

解できるかどうかは、別物だといえます。

実際、30年以上にわたって、心理学専攻の学生を指導してきて、「心理学の論文は難しい」と言う学生は少なくありません。なぜ、心理学の論文を読むのは難しいと感じるのか、本当に心理学の論文は難しいのか。そのことについて、中学や高校で勉強した古文を例に、考えてみましょう。

清少納言の「枕草子」、紫式部の「源氏物語」。こう聞くと、「もののはれ」とか、「いとおかし」という言葉が思い浮かぶかもしれませんが。こうした古典は、日本語で書かれています。すぐに理解するのは困難です。それは、使われている単語が、現代日本語とはずいぶんと違っているからです。さらに、古典文法は、現代日本語の文法とは異なっています。ですから、古文を読むためには、単語の意味を覚え、古典文法を身につけなければなりません。古典における単語や文法は、日常的に使っているものではありません。それらを覚えるためには、時間を要し、苦勞も多いでしょう。それでも、努力してマスターすれば、優雅な古典の世界を味わうことができるようになります。

心理学の論文も、古典と同じです。論文で使われる心理学用語（テクニカルターム）は、日常的には使われないものがあります。また、日常的に使われている言葉の意味とは異なるものもあります。その意味を理解するには、心理学辞典などを使って覚えなければなりません（第3章2参照）。論文の構成や書き方のルールも、日常的な文章とは異なる点が少なくありません。それに慣れるには、ある程度の時間と論文を読む練習が必要です。

研究者であり、大学で教えている私にとって、心理学の論文を読むことは仕事の1つです。それほど苦にはなりません。とはい

うものの、心理学のどの分野の論文でもスラスラと読めるわけはありません。領域が異なる研究分野だと、知らない心理学用語が出てきて、理解できないことがあります。研究の手続きがわからなくて、戸惑ってしまうこともあります。心理学の専門家だからといって、心理学のすべてがわかっているというわけではないのです。

他の学問分野の論文を読むときには、その戸惑いはさらに大きくなります。私は、児童期や青年期の発達を研究しているので、学校教育や社会にも関心があります。そこで、教育学や社会学の論文をしばしば読みます。教育学や社会学の論文には、本文中に注が付けられていることが多々あります。心理学では、そのような注を用いることはほとんどありません。ですから、教育学や社会学の論文を読むたびに、注のところで立ち止まってしまいます。最終的には、論文の末尾に列挙された大量の注を読み飛ばしてしまうことも少なくありません。それは、私が注の付いた論文の読み方を学んでこなかったからなのです。

心理学の論文を読み始めて、「難しい」と感じたとしても、諦めないこと。それは、あなたにとってのチャンスなのです。どのようにして読んでいけばいいのか。そのコツさえわかれば、楽しく論文を読んでいくことが必ずできるのですから。



## 4 論文と小説の違い

---

1 論文には決まった形式がある

心理学の論文は、だいたい次のような形式で書かれています。最初に、問題と目的があり、次に、方法。さらに、結果、考察、文献と続いていきます。そうした形式は、どの論文でもほとんど同じです。心理学論文には、一定の構造があるのです（第4章参照）。研究が進められた流れに沿って、書いていくというのが、論文の特徴なのです。

実験や調査などの実証論文（第2章参照）では、最初に目的を考えます。それにしたがって、方法を考えて、データをとります。それから得られたデータを分析して、考察していきます。そうした一連の流れを学術的な用語で表現したものが、論文ということになります。ですから、目的、方法、結果、考察、文献という形式になるのです。

それに対して、小説では、いろいろな形式が可能です。時間の経過に沿って、順に書いていくものもあります。その場合、物語は始まりから終わりへと連続していきます。それとは異なった書き方もあります。物語の最後の場面から始まって、その最終結果に至るプロセスを、時間を遡った上で順に追っていくというものです。この場合、小説の中での時間の流れは、現在から始まり、いったん過去へと巻き戻ります。それから、再び時間は順行的に流れていくのです。

こうして比べてみると、論文と小説とでは、形式に違いがある

ことがわかるでしょう。

2

心理学の論文は論理  
を大切にす

心理学の論文には、小説のように、結末から書いていくものはありません。研究の始めから終わりにかけて、順に説明していきます。そうした形式が、論文の標準的なスタイルなのです。そのため、どの論文を見ても、問題と目的、方法、結果、考察、文献、という順です。そうした論文ばかり読んでみると、「心理学論文は形式的で、面白くない」と感じる人もいるかもしれません。しかし、その形式に沿って書いていくというのが、論文の作法であり、大切な点なのです。

私は、この本の姉妹本として、『心理学論文の書き方——おいしい論文のレシピ』（2006年、有斐閣）を書いています。同書では、論文の書き方を料理の作り方になぞらえてみました。論文も料理も、筋道を立てて進めていかないといけない点が共通しています。でたらめな順番で料理を作っても、おいしい料理はできません。それと同じで、一般的な形式に沿わない論文では、読み手に内容が伝わりません。筋道の立った論理が何よりも重要なのです。心理学の論文が形式を重んじるのは、論理を大切にす

3

心理学の論文はどこ  
から読んでも面白い

大学生の頃、アガサ・クリスティーの推理小説が大好きでした。「オリент急行殺人事件」や「そして誰もいなくなった」などを、時間が過ぎるのも忘れて夢中になって読んだものです。推理小説の面白さの1つは、謎解きです。犯人は誰か。動機

は何か。最初のページから最後のページまで、筋を追いながら読んでいきます。途中から読んで、ストーリーはわかりません。最後の結末を最初に読んでしまったら、面白みは半減します。

それに対して、心理学の論文の場合はどうでしょうか。最初の一文から順番に最後まで読んでいく必要は、必ずしもありません。ときによっては、どこか一部分だけ読む場合もあります。たとえば、高校生の進路選択意識の論文を探しているとしましょう。そのときには、まず論文の研究対象者を確認すればよいわけです。「大学生」だったとすれば、後で参考にするかもしれませんが、その論文を脇に置きます。「高校生」であれば、さらに読み続けるということになります。論文の読み方はいろいろあってよいのです。自分の必要に応じて、問題と目的・方法・結果・考察・文献のどこから読んでいってもよいわけです。

4

心理学の論文を読んで著者の心意気にふれる

論文を、推理小説のようにハラハラドキドキしながら読むことはありません。純愛小説を読んだときのように、胸がキューンとなったりすることはありません。ただし、論文を読んで、知的な刺激を受けたり、知的な興奮を感じたりすることはあります。小説とは次元は異なってはいますが、論文は読む人にある種の感動を与えることがあるのです。ちょっと大げさな表現かもしれませんが。

そのような論文は、著者の心意気が伝わってくるような文章展開になっています。論文を通して明らかにしたい目的。その目的を達成するために考え抜かれた研究デザイン。実験や調査から得られたクリアーな結果。さらに、それを説得的に論じた考察。こ

うした一連の流れをもった論文の背後に、研究を推し進めた著者の熱い思いを感じ取ることができます。

論理的に内容が展開されていく論文を読んでいくと、小説とは違う面白さを感じることがあります。それは、論文の著者の意気込みや主張が伝わってくるからです。そうした論文に共通しているのは、論理が一貫していることです。このような論文の論理(第2章5参照)をたどっていくことが、論文を読む楽しみだといえるでしょう。

5

論文の中のメッセージを読み解く

論文の中には、著者の何らかのメッセージが隠されています。論文を読んで、そのメッセージを読み解くのも面白いかも

しません。

短歌の世界では、「折句<sup>おりく</sup>」や「杳冠<sup>くつかぶり</sup>」という隠れたメッセージを伝える詠み方があります。「徒然草」の作者である吉田兼好と同時代の僧で歌人だった頓阿<sup>とんあ</sup>との問答が、杳冠の歌として有名です。みなさんは、隠れたメッセージがわかるでしょうか。

#### 吉田兼好が送った歌

よもすずし ねざめのかりほ た枕も ま袖も秋に へだてなき  
かぜ

#### 頓阿の返歌

夜も憂し ねたくわがせこ はては来ず なほざりにだに しば  
し問ひませ

杳冠は、各句の頭（冠）と尻（杳）をとってメッセージを伝えます。吉田兼好の歌は、「米（よね）給へ、銭も欲し」。それに対する頓阿の返歌は、「米はなし、銭少し」。

こんな遊び心に満ちた論文が、どこかにあれば読んでみたいものです。実際にはこうした論文を探すのは難しいかもしれませんが、メッセージを読み解こうとすることで、意外な発見があるかもしれません。

## 5 論文は読めないと思っているあなたへ

---

「読書三到」といわれます。読書をして意味を真に理解するには、目でよく見て、声に出し、心を集中するという3つが大事だという意味です。

「読書百遍」ともいわれます。繰り返して熟読すれば、どんな書物でも、意味が自然とわかってくるという意味です。「魏志」王肅伝とうぐう董遇伝にある言葉です。「読書百遍意自ら通ず」ともいわれます。

心理学の論文も、最初は、何が書いてあるのかさっぱりわからないと感じるかもしれません。「これって、日本語？」と思うかもしれません。それでも、「習うより、慣れろ」です。難しいと思っても、あきらめずに、何度も読み直してみることを通じて、少しずつわかってくるものが、きっとあるはずで。初学者には、チャレンジし続ける気持ちをもつことが、何よりも大事なのです。

その際に、気をつけておくとよいことがあります。以下では、

雑誌に掲載された論文を印刷して、それを読んでいくことを念頭に説明していきます。詳しいことは、第4章で述べていきますので、ここでは要点だけを述べることにします。

1

わかることとわからないことを分ける

第1は、自分が理解したことと理解できなかったことを区分しておくことです。

わかった部分の中で特に重要だと思った箇所には、下線を引いたり、マーカーで印を付けます。左右や上下の余白部分に、簡単なメモ書きをするのもよいでしょう。わからなかった箇所も、同じように印を付けます。色違いのマーカーを使えば、自分の理解度を自覚しやすくなります。

2

とにかく最後まで読んでみる

第2は、途中で論文を放り投げないで、とにかく最後まで目を通してみることで、わからないことが多くても、それは

問題ではありません。初学者であれば、わからないことのほうが多いのが当たり前です。あきらめなければ、少しずつ読み方がスムーズになり、内容理解が早くなっていきます。

3

読んだ論文を記録する

第3は、読んだ論文の後始末です。といっても、ごみ箱に捨てるということではありません。読み終わった論文をファイ

リングしたり、袋に入れていたり。自分の気に入ったやり方で構いません。具体的な方法は、第9章でも紹介しています。1本、また1本と読んだ論文の数が増えていけば、自分の励みにもなります。

第4は、心理学のテクニカルタームを調べるための辞典を用意することです。文章を読んでいるときに、読めない文字があれば、漢和辞典を引きます。知らない単語があれば、国語辞典を引きます。それと同じように、心理学の専門用語を調べるには、心理学辞典が必要となります。手元に置いて、いつでも調べられるようにしておくことが大切です。

論文を読んで、最初はわからない箇所があっても仕方ありません。理解できた部分を少しずつ増やしていくことが大切なのです。その意味では、とにかく、最後まで読んでみる。そうした体験を積み重ねていくことが大事です。そうした中で、読み方も次第に上手になり、理解も深まっていくことでしょう。

## 6 心理学の世界への旅に出よう

---

本書では、心理学の論文を読むときのコツとツボを紹介していきます。コツ（骨）とは、「物事をうまく処理する容量。呼吸。勘所」のことです。ツボ（壺）とは、「物事の大事なところ。急所、要所」のことです。

論文は、論理という骨組みのもとに成り立っています。その論文の読み方のコツとツボは、論文の骨組みを理解する要点となるというわけです。

心理学の論文を読むことで、心理学の世界との出会いが始まります。心理学は科学として成立してから、まだ140年ちょっとと

いう若い学問です。それでも、多様な分野に広がりを見せ、多くの研究成果を蓄積してきています。心理学の論文を読みながら、そうした心理学の世界の幅広さや奥深さを知る。これは、学問を学ぶ上での醍醐味です。さまざまな知的刺激を得ることのできる貴重な機会といえます。

論文を読むことは、その論文の著者との対話でもあります。対話といっても、面と向かってじかに話し合うという意味ではありません。論文を通して、著者は読み手の心に語りかけてくるのです。論文には客観性が重要です。ですから、「私は、こう思う」というような形では、著者は論文に登場してきません。わずかに、論文のタイトルの下に、遠慮がちに名前を載せているだけです。本文中では、著者は背景に隠れて見えません。誰かが、その論文を読むときに、著者は目の前に現れて、読み手に語りかけるのです。その著者との対話を楽しみながら論文を読む。こうした読み方もあってよいと思います。

論文を読むことを通じて、新しい知識を知ったり、新たな見方を知ったりすることができます。それは、きっとみなさんの学びの深化につながっていくことでしょう。

心理学の論文を読むことは、あなたと心理学の世界との出会いです。そこから、さらに広がっていく心理学の旅。その旅を楽しんでほしいと願っています。本書は、論文の読み方のサポート役です。さあ、これからその旅に出かけていきましょう。





# 学問の世界の旅マップ

## 旅のまえに (Part1)

確認しよう

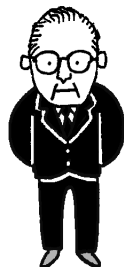
- 論文を読む目的や理由 (第1章1)

知っておこう

- 論文のタイプ (第2章1)
- 論文のルール (第2章2)
- 構成概念と操作的定義 (第2章4)
- 科学論文としての客観性と論理性 (第2章3, 5)
- 心理学の用語・知識 (第3章2, 3)
- 論文を読む楽しみ (第1章4)

大切な心構え

- なぜだろうと疑問に思う (第3章4, 第6章3)
- 徹底的にこだわる (第3章5)
- 集中して取り組む (第3章6)



声に出して読む (第5章3)

ざっくり読む (第5章4)

じっくり読む (第5章5)

部分的に読む (第5章6)

批判的に読む (第5章7)

著者の主張を読み解く (第5章8)

集団的に読む (第5章9)

キーパーソン (第11章1)

キーコンセプトとキーワード (第11章1)

インターネットの情報 (第11章2)

検索用語 (第11章2)

データベース検索 (第11章2)

定点観測 (第11章3)

心理学の最新の知見や発展を知る (第 10 章 2, 3)

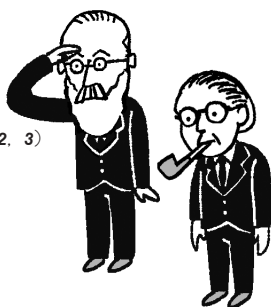
知的な思考力を高める (第 10 章 4)

文化を知る (第 10 章 5)

テクニカルタームを覚える (第 10 章 6)

論理の展開を学ぶ (第 10 章 7)

日本語の概論書を先に読む (第 10 章 8)



考察 (第 4 章 7)

文献 (第 4 章 8)



タイトルと著者名 (第 4 章 2)

アブストラクト (第 4 章 3)

問題と目的 (第 4 章 4)

方法 (第 4 章 5)

結果 (第 4 章 6)

図表 (第 7 章)

統計 (第 8 章)



### 旅のもちもの

論文を読むときに役立つこと (第 6 章)

- 辞典 (第 3 章 2)
- 概論書と専門書 (第 6 章 1, 2)
- メモ (第 6 章 5)
- 先生や先輩など、質問できる関係性 (第 6 章 3)

## 索引

### ● 数字・アルファベット

- 5WIH 76  
APA 175  
CiNii 180  
Cohen の  $d$  144  
EndNote 118, 153  
Excel 154  
Google Scholar 180, 182  
J-STAGE 180, 181  
Mendeley 153  
 $N$  数 (対象者の人数) 142  
pdf ファイル論文 150, 153, 180  
researchmap 184  
 $t$  検定 80, 138, 140, 142  
 $\chi^2$  検定 137, 140

### ● あ 行

- アブストラクト (要約) 73, 84,  
92, 148, 175  
一般的な問い 58  
インターネット 176  
— 記事 178  
インパクト・ファクター 191  
引用  
間接 — 39, 75  
直接 — 39, 75  
英語論文 38, 157, 174  
エラーバー 126-128  
折れ線グラフ 122, 124, 130

### 音 読 89

### ● か 行

- 概論書 54, 55, 106, 107, 109, 111,  
167, 172  
科学論文 37, 41, 44, 81  
学会誌 2, 29, 35, 36, 50, 51, 73, 97,  
100, 143, 173, 180, 184  
間隔尺度 134, 136  
観察論文 34  
間接引用 39, 75  
観測値 137  
基礎実験 22, 58  
期待値 137  
キーパーソン 3, 172  
帰無仮説 80, 137-139, 142  
客観性 14, 44, 45  
既有知識 178  
紀 要 → 大学紀要  
キーワード 62, 89, 173, 182, 184  
グラフの傾き 124  
クリティカル・シンキング (批判的  
思考) 98  
ケーススタディ 34  
結 果 38, 70, 78, 81, 96, 98, 112,  
193  
研究業績 184  
研究群の連なり 186  
研究誌 50  
研究手法 30, 99

- 研究成果 29, 30, 52, 83, 185  
 研究対象者 9, 77, 146  
 研究デザイン 22, 23, 77  
 研究テーマ 190, 193  
 研究の流れ 173  
 検索 (情報検索) 176, 177, 179, 181  
 検索システム 62  
 検 定 80, 136, 140  
 効果量 142  
 考 察 70, 81, 84, 98, 193  
 構成概念 41, 42  
 国際会議 158, 160, 162  
 国立国会図書館サーチ 180  
 今後の課題 35, 70, 193
- さ 行
- 最頻値 79  
 索 引 54, 173  
 査 読 36, 100  
 サンプルング 76, 143  
 四則演算 135  
 実験研究 76  
 実験の手順 (手続き) 44, 77, 84, 99, 146  
 実験論文 34  
 実施時期 76  
 実施した人 77  
 実施場所 76  
 実証性 1, 78  
 実証論文 7, 34, 83  
 執筆・投稿の手びき 83  
 質問紙 34  
 質問紙尺度 84, 95, 99, 118, 164  
 質問紙調査 76, 134  
 社会の中で生きている人間の心 46  
 従属変数 34  
 縦断調査 72  
 集中して読む 63  
 自由度 141  
 熟 読 94  
 出 所 75  
 順序尺度 134, 136, 137  
 情報検索 → 検索  
 情報の取捨選択 177, 183  
 書誌情報 146, 152, 153  
 事例研究 34  
 信頼性 44  
 心理学辞典 5, 13, 24, 52, 53, 61, 110, 111, 165, 173  
 心理学の近接領域 57  
 心理学の専門用語 (テクニカルターム) 13, 52-55, 60, 164, 173, 179  
 心理学の (発展の) 歴史 56, 190  
 すぐに読む 64  
 図の縦軸 124, 125, 130  
 図の横軸 124, 125, 130  
 図 表 78, 79, 83, 96, 122, 140  
 — のタイトル 122, 128, 130  
 先行オーガナイザー 56, 167  
 先行研究 23, 35, 39, 52, 70, 74, 81, 83, 97, 99, 165, 171, 193  
 専門書 108, 109  
 操作的定義 42, 43  
 卒業論文 23, 28, 117, 125, 155  
 素 読 90

## ● た 行

第1種の誤り 80, 139  
大学紀要(紀要) 29, 50, 146  
体 系 107, 109  
対 象 72, 89, 146, 152  
対象者の人数 → $N$ 数  
タイトル 62, 70, 72, 89  
第2種の誤り 139  
代表値 78, 126, 135  
対立仮説 138  
妥当性 43  
他文化 162  
知的好奇心 29, 60, 62, 112  
知的な思考力 161  
中央値 79  
調査論文 34  
直接引用 39, 75  
著者との対話 14, 31  
著者の思考過程 193  
著者の主張(意見) 39, 74, 75, 91,  
92, 98, 166  
著者名 70, 73, 81  
定点観測 183  
テクニカルターム →心理学の専門  
用語  
データのちらばり 45, 79, 126,  
127  
データ分析 →統計  
データベース 154, 175, 179, 182  
手続き →実験の手順  
電子ジャーナル 50, 51  
統計(データ分析) 44, 45, 137,  
140

統計量 140, 141  
独自性 35, 40, 165, 174  
読書会 22, 89, 101  
独立変数 34  
図書館 107, 108  
—の相互利用 108  
度 数 135, 140  
度数分布 126  
トピック・センテンス 91

## ● な 行

内 容 72, 89, 146  
能動的な読み 22, 116

## ● は 行

バックアップ 150  
発展的な問い 193  
批判的思考 →クリティカル・シン  
キング  
批判的な視点 97, 176  
標準偏差 79, 80, 122, 125-127,  
138  
表の行 128  
表の列 122, 128, 129  
標 本 143  
比率尺度 134, 136  
ファイリング 12, 149  
ファイル検索 152  
ファースト・オーサー 73  
フィールドワーク 34  
文 献 25, 39, 70, 81, 83, 108, 166  
文献カード 27, 116, 148, 152, 154  
文献管理ソフト 117, 153  
文献リスト 154

平均値 45, 79, 80, 122, 124-127,  
136, 139, 143  
方法 44, 70, 72, 76, 84, 89, 95,  
146, 152, 193  
母集団 143  
翻訳 163  
逆—— 164  
自動—— 168

### ●ま行

見出し 70  
名義尺度 134, 135, 137  
メモ 115  
目的 98, 146  
目的意識 115  
黙読 90  
問題意識 148  
問題と目的 39, 70, 74, 78, 165,  
171, 193

### ●や行

有意差 80, 139, 140, 143  
有意水準 80, 139, 141

### ●ら行

リサーチ・クエスション 193  
レジюме 21, 103  
レポート 21-25, 96, 125, 154  
論文  
意見—— 36  
原著—— 35, 36  
コメント—— 36  
資料—— 35  
リプライ—— 37  
レビュー—— 27, 35, 115, 153,  
185  
——の構成 70, 94  
——の作法 40  
——の取捨選択 89  
——の整列 147  
——の分類 147  
——の骨組み 13  
——を読む時間帯 116  
——を読む順番 114  
——を読む目的 23, 83, 89, 114  
論文ノート 117, 151  
論理性 44, 46  
論理展開 24, 44, 94, 98, 167, 171,  
186

● 著者紹介

都 筑 学 (つづき まなぶ)

中央大学文学部教授 博士 (教育学)

心理学論文の読み方

— 学問の世界を旅する

*How to read a paper in psychology:*

*Journey for a fantastic academic world*

ARMA



有斐閣アルマ

2022年2月25日 初版第1刷発行

著 者 都 筑 学

発 行 者 江 草 貞 治

発 行 所 株式会社 有 斐 閣

郵便番号 101-0051

東京都千代田区神田神保町 2-17

<http://www.yuhikaku.co.jp/>

印刷・株式会社精興社／製本・大口製本印刷株式会社

© 2022, Manabu Tsuzuki. Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

★定価はカバーに表示してあります。

ISBN 978-4-641-22186-4

**JCOPY** 本書の無断複写(コピー)は、著作権法上での例外を除き、禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に(一社)出版者著作権管理機構(電話03-5244-5088, FAX03-5244-5089, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。